

ニューノーマルに対応した公園利用に関する考察

— 高槻市安満遺跡公園を事例として —

独立行政法人都市再生機構

都市再生部 公園課 玉泉 大樹

1. はじめに

昨今の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により、我々の生活は大きな変化を強いられている。厚生労働省は、個々人が取組む感染防止対策として①換気の悪い密閉空間、②多数が集まる密集場所、③間近で会話や発声をする密接場面、の3つの密¹⁾を行わないよう求めており、我々は屋内外での行動を大幅に制限しながらニューノーマル（コロナ禍に応じた生活様式）に適応した生活を余儀なくされている。

そのような状況で、運動不足の解消、ストレスの緩和等の効果が得られる場として、身近なオープンスペースや緑が再評価されており、ニューノーマルにおける生活環境下において公園は必要不可欠な場所であると言っても過言ではない。

独立行政法人都市再生機構（以下、「UR」という）が防災公園街区整備事業により整備を行い、コロナ禍中の令和3年3月に全面開園した大阪府高槻市の安満遺跡公園では、高槻市の整備による史跡公園部分と一体となって、広域避難地としての防災機能はもちろんのこと、公園管理事務所及び市民活動拠点であるパークセンターや全天候型の子どもの遊び施設、民間活力を導入したカフェ等により人々が集まるための賑わい空間を創出し、また、公園に隣接して市が建設した「高槻子ども未来館」と合わせて子育て支援の拠点を形成している。さらに、市民とともに成長し続ける公園にするため、時代やニーズに合わせて柔軟に完成度を高められるようあまりつくり込まないハーフメイドの公園づくりを実践するなど、持続可能な公園運営にも取り組んでいる。本論文は、これらの内容がニューノーマルにおける今後の公園の在り方を検討する際の一助となることを目的に報告するものである。

2. 公園概要

(1) 安満遺跡公園について

安満遺跡公園（図 1）は、大阪府高槻市の JR 高槻駅の東約 1.2km に位置する。公園の前身である京都大学附属農場の移転を契機に、高槻市では、公園、歴史、防災を専門とする学識経験者や、市民によるワークショップ等で幅広い意見を取り入れながら、①歴史資産の保全活用、②地域防災力創生の場、③みどり豊かな景観、環境の創出、④成熟化社会に向けた公園、⑤高槻版市民が育てる公園づくり、の5つを目標像として掲げる整備構想²⁾を策定した。URが防災公園街区整備事業として防災公園約 8.1ha、公共公益施設用地約



図 1 安満遺跡公園位置図

0.6ha の整備を行い、高槻市が、大学農場跡地を含めた一帯約 13ha を史跡整備事業により整備を進め、市の中心部に計 22ha（甲子園球場約 5 個分）の巨大な公園が誕生した（図 2）。

構想に基づき、弥生時代の安満遺跡を保存・継承するとともに、災害時には、「広域避難地」として防災機能を発揮するよう、耐震性貯水槽、防災倉庫、災害時用ヘリポート等を備えた緑豊かな公園に整備されている(図 3,4)。URは整備構想を基に約 8.1ha の防災公園部分の設計、公園整備を進め、市が整備する史跡公園部分とともに令和3年3月に工事を終え、全面開園に至った。公園の事務所や市民活動の拠点となる「パークセンター」(「令和元年度おおさか環境にやさしい建築賞」を受賞)には民間事業者により「全天候型子どもの遊び施設」が整備され、公園に隣接した市街地部分に市が整備した、子育て支援施設「高槻子ども未来館」と併せて、市域の子育て支援の拠点となっている。また、公園内に民間のカフェ・レストランを設置し、民間活力を導入した賑わい空間を創出した。



図2 公園計画図



図3 航空写真



図4 エントランス

(2) 安満遺跡について

安満遺跡は弥生時代の環濠集落跡を含む遺跡であり、居住域(環濠集落)、生産域(水田跡)、墓域(集団墓地)の3つが現存し、弥生時代の「クニ」の変遷過程を明らかにすることができる極めて重要な遺跡である(図 5)。京都大学附属農場の開設工事で発見されて以来約90年間、農場が存在してきたことで開発をまぬがれ、地下の遺構が良好な状態で保存されてきた。今回の公園整備では、必要に応じて文化財調査を行うとともに、公園全体に盛土を行うことにより歴史資産の保護、保存を図っている。



図5 安満遺跡分布図

また、偶然にも弥生時代の居住域の部分に京都大学農場の管理棟等の建物群が設けられており、これら昭和初期の木造建築が市によって安満遺跡の歴史を体感できる本館（大阪府の近代遺産）、歴史館、体験館としてリノベーションが行われ、魅力的な歴史拠点施設として新たに生まれ変わった（図 6）。また、本館は民活レストランとしても活用されている。



図 6 歴史拠点

（3）市民とともに育てつづける公園

「高槻版市民が育てる公園づくり」という公園の理念・目標像を共有し、その実現に向けて、市民とともに公園づくりを進めることを目指して、基本構想策定段階からワークショップに市民が参加し、“公園で何をしたいか”をイメージした参加者の意見が交わされた。

平成26年度から市民メンバーが参画した市民活動プロジェクトを立ち上げ、平成29年4月からは、「安満人倶楽部（あまんどくらぶ）」（図 7）が発足し、歴史、自然、防災、ペット、広報等の各テーマに分かれて、様々な活動にチャレンジしている。



図 7 安満人倶楽部の活動の様子

（4）園内施設

①パークセンター

平成 31 年 3 月に一次開園した公園西側エリアの中心に、公園の管理と活動・交流拠点となるパークセンターを設置している。

パークセンターには管理事務所のほか、安満人倶楽部の活動スペース、会議室、スタジオ、工作・調理室、ランニングステーションが設けられ、公園のインフォメーション機能の他、市民による様々な活動拠点の機能を備えている（図 8,9）。

また、施設内には遊びの創造機能として、民間事業者による全天候型「子どもの遊び施設」が設置されており、平日でも多くの親子連れが訪れている（図 10）。



図 8 パークセンター平面図



図9 パークセンター外観



図10 子どもの遊び施設

②防災機能

災害時には広域避難地として、約21,000人の避難が可能なスペースを確保するとともに、救援物資や災害瓦礫の集積所、応急仮設住宅の建設地等、臨機応変な活用が可能となる。また、臨時ヘリポート、耐震性貯水槽、防災倉庫、災害用トイレ、非常用井戸等の防災機能を備えており、パークセンターはボランティア活動の拠点となることを想定している(図11)。さらに、集中豪雨に対し下水道や水路から一時的に雨水を貯留する施設($V=2$ 万 m^3)を下水道事業により公園内に整備し、下流地域の浸水被害の軽減を図っている。



図11 防災施設（非常用井戸、防災倉庫、災害用トイレ）

③芝生広場、屋根付き広場

安満遺跡公園では、約22haという敷地面積を有しており、芝生広場面積約90,000 m^2 (原っぱ含む)、東西2箇所を設置された人工芝の広場面積約4,500 m^2 、などを利用することができる。

広大な芝生広場では、園外保育で訪れた保育園、幼稚園の園児が元気に駆け回り、ボール遊び等を楽しみ、広場の周囲の園路では、散歩やウォーキングで園内を巡る市民の姿が見られる。また、屋根付き広場の人工芝の上では、家族連れやグループがリビングルームに居るかのようにくつろぎ、思い思いの時間を過ごしており、園内で人気のスポットの一つとなっている(図12)。



図12 人工芝は家族の憩いの場に

④民間活力の導入

公園内には利用者の利便性の向上と賑わいづくりを図るため、市の管理許可、設置許可を受けて、全

天候型子どもの遊び施設やカフェ・レストラン、ペットサービスショップ等の民間施設が各事業者により運営されている。また、指定管理者によって公園施設を管理するだけでなく、マルシェやライブ等の様々なイベントや体験プログラムが催され、利用者の多様な楽しみ方を提供し、公園で1日を過ごすことも可能となっている(図 13,14)。

パークセンターや、広場、トイレのネーミングライツや、樹木、ベンチの設置に市民の寄付を募り、これらが公園の管理運営に活かされる仕組みが導入されている。



図 13 マルシェで賑わう園内



図 14 東側エリア民間施設

3. コロナ禍における公園利用

平成 31 年 3 月の一次開園以来、多くの利用者で賑わってきたが、コロナ禍においてはイベントの中止や施設の休業や時間短縮等の対応を強いられることとなった。

パークセンターにおいては、営業再開後は入館時の手指の消毒やマスクの着用はもちろん、利用者名の登録、貸室は定員の50%の人数制限を設け、換気を行う等、一定のルールが設けられた。屋外においても、ベンチにソーシャルディスタンスを保って座るよう表示がされる中、来園者が比較的集中した時期においてもそれらを守りながら、過ごす利用者の姿が見受けられた。

令和 3 年 3 月 27 日に開催した安満遺跡公園のオープニングセレモニーの開催にあたっては公園の広さを活用することで、国からの通知³⁾を遵守し、2m毎の間隔を確保する他、万全の感染防止措置を取ることができ、(体温測定、マスク着用かつ声出しなし、短時間)千人規模のイベントの開催が実現した(図 15,16)。



図 15 開園式準備風景



図 16 開園式風景

国交省はニューノーマルに対応した公園の活用を展開するため、公園利用に関する4つのポイントを公表している。①体調が悪いときは利用を控える、②時間・場所を選びゆずりあう、③人と人とのあいだをあける、④こまめに手洗いする⁴⁾、このうち②、③について、安満遺跡公園の広大な芝生広場ではソー

シャルディスタンスを保てるため、多くの利用者が心理的な負担を伴わず公園を利用できるだけでなく、新たに設けたせせらぎや樹林による身近な自然を感じたり、気軽にウォーキングやランニング等の軽スポーツを行ったりすることができ、巣ごもりストレスの解消やリフレッシュによる健康維持に大きく役立っている。また、2ヶ所の屋根付き広場では日差しや雨をしのぐことができるため、雨天時や炎天下における利用の促進だけでなく、人数制限や換気の条件から屋内で実施が困難なイベントやプログラムの開催に適している。

また、集客機能を持つパークセンターやカフェ・レストラン等の民間施設が東、中央、西の3つのエリアに分散して配置されていることによって、比較的用户が園内の1ヶ所に集中しない状況が見受けられた。パークセンター内の休憩スペースや、屋外テラスの座席、カフェ・レストランでは、ノートパソコン等を開いている利用者も見られ、寄付により公園内に設置されている屋外のベンチ(約100基)も合わせ、他の利用者の迷惑とならない範囲でリモートワークも行われているものと考えられる(図17,18)。

加えて、公園施設が良好に管理されている背景には、指定管理者や安満人倶楽部の方々による公園利用者への目配りがあり、前述の公園利用に関する4つのポイントが守られやすい雰囲気を生み出しているものと考えられる。



図17 公園施設配置図

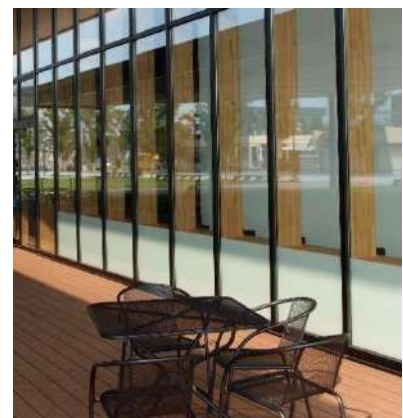


図18 屋外テラス席

4. おわりに

市の中心市街地にできた22haもの広大な公園の整備計画はコロナ禍以前に立てられたものであるが、前述のとおり、史跡と避難地として確保したオープンスペース、市民の快適な利用と災害時の活用を意識した屋根付き広場といった防災機能をはじめ、市民参加や官民連携の取組が、ニューノーマルに対応した公園として有効であることが明らかとなった。

安満遺跡公園は市民とともに成長し続ける公園にするため、歴史的空間づくりならびに防災空間づくりを踏まえつつ、時代やニーズに合わせ公園づくりを進めていく余白を残したハーフメイドの公園づくりを実践しており、今後も市民とともに育てつづける公園である。市民や多様な人々が活動し、意見交換を行いながら、今後の公園運営を行っていくことで、コロナ禍の時代を経た公園利用者の目線で、ニューノーマルに対応した今後の成長する公園づくりに期待したい。

本論文が、ニューノーマルにおける公園整備計画策定の際の一助となれば幸いである。

【参考文献】

- 1) 厚生労働省:3つの密を避けましょう(ポスター):<https://www.mhlw.go.jp/content/000645566.pdf>
- 2) 高槻市:(仮称)安満遺跡公園整備構想:2014.3
- 3) 内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室:感染拡大地域における催物の開催制限等について:2021.2.26
- 4) 国土交通省:「新しい生活様式」を心掛けて公園をしよう!4つのポイント:2020.8.7

図1,5,7,10,12,13 写真は高槻市 HP より